

第3回鶴川駅南口のまちなみをつくる会 まとめ・ご意見ご感想

今回のテーマである「歩きたくなるまち」は単に「歩く」ということだけではなく、「歩きやすい」ことが重要です。歩きやすいまちは、歩行者と車や街の要素が安全に調和して存在し、「あかり」を用いた実践的な工夫も多いことを学びました。また、歩きやすいまちとは、すなわち安全安心なまちでもあります。



角館先生の講義では、「あかり」による防犯の効果と、それを実現するために、「人の気配がするあかり」を灯すことが、ひいてはまちの魅力を上げていくことを学びました。

模型ワークでは、参加者のみなさんが「街灯」「樹木」「ベンチ」などのミニチュアを模型に配置し、「歩きたくなるまち」についてイメージを共有しました。



今回ワークで使用した模型には、前回、前々回のワークショップのワークで、みなさんで考えたまちなみのアイデアが詰まっています。この模型はこの「鶴川駅南口のまちなみをつくる会」で考えた記録としてハンドブックに掲載していく予定です。

ワークショップの最後に、 参加者のみなさんに感想をお聞きしました

・1番印象に残ったのは、人の生活とあかりの関係、あかりの重要性です。

・照明について、おもしろく考えさせられました。

・家の前の通りがとても暗く、明るい方がいいと思っていたが、先生のお話を聞き、考えが少し変わった。

・あかりが防犯と繋がっているということが勉強になりました。

・街のあかりは大切なことだと改めて認識しました。

・照明が大変参考になった。
・照明の文化を感じた。
・人口の少ない鶴川の駅前にあてはめるのは難しい。南口駅前を今日の先生のアドバイスを得て、他に知られるよう実施してほしい。

鶴川駅南口のまちなみをつくる会 とは？

鶴川駅の南口エリアにおいて、「良いまちなみは何か？」を学びながら、南口ならではのまちなみのつくり方を区画整理区域内の土地・建物所有者の方と専門家の方とを交え考える場（全4回）です。



【第4回は以下の内容で実施しました】

第4回 2024年10月26日(土) 10時00分～12時00分
テーマ：居心地の良いひろばとは？
(講師：ランドスケープアーキテクト・石井秀幸先生)

第4回のニュースレターは作成でき次第、みなさまへお送りいたします。

問い合わせ
町田市都市づくり部地区街づくり課
TEL 042-724-4214
〒194-8520
東京都町田市森野二丁目2番22号
E-mail：toshi070@city.machida.tokyo.jp



鶴川駅南口の まちなみをつくる会 第3回のテーマは 「歩きたくなるまちとは？」

第3回目の開催となる「鶴川駅南口のまちなみをつくる会」は、はじめて平日の夜に開催されました。普段は土曜日の午前中に開催のこの会ですが、できるだけ多くの人にご参加いただきたいと考え、普段と違う開催日程を設定してみたところ、はじめてこの会に参加するという参加者さんもいらっしゃいました。

今回のテーマは「歩きたくなるまちとは？」。まちを作っている様々な「歩きたくなる要素」を学んだ

のちに、その大きな要素である「あかり」について学んでいきます。

まずは、第1回、第2回のテーマである「魅力的なまちなみ」「みどり豊かなまちなみ」について、これまでの学びを元に参加者の皆さんの考えをお聞きしていきましました。

その後、ご自身の敷地から「まちなみ」まで視点を大きく捉えるためにプロフェッショナルの講義を聞き、模型でのワークを通して実際の鶴川駅南口に当てはめて考えていきました。

【第3回はこのように進められました】

- (1) テーマ共有講義
「歩きたくなるまちとは？」TNA 武井誠さん
- (2) 講義「あかりからのまちづくり」
照明家 / ぼんぼり光環境計画代表取締役
東京都市大学工学部 客員教授 博士(工学)
角館 政英 先生
- (3) 模型ワーク「ご自身の敷地周辺について考えよう」

【鶴川駅南口のまちなみをつくる会】 第3回開催概要

日時：2024年9月19日木曜 18:30-20:30
場所：和光大学ポプリホール鶴川3F多目的室
テーマ：「歩きたくなるまちとは？」
ファシリテーター：TNA 武井誠さん、鍋島千恵さん
講師：照明家 / ぼんぼり光環境計画代表取締役
東京都市大学工学部 客員教授 博士(工学)
角館 政英 先生

テーマ共有講義

「歩きたくなるまちとは？」

TNA 武井誠さん（建築家）

まずは、今までの講座で登場してきた特徴的なまちなみの写真を見て、みなさんの視点で、それらのまちなみの「良い部分」や「素敵な部分」を言葉にしてもらいました。「車道と歩道が自然と分かれていて、どちらにとっても歩きやすい、走りやすい道幅や舗装の工夫」「電柱や邪魔になるものが自然と隠されている工夫」「緑や店舗など人の居場所や賑わいの工夫」など、今までの講義などを踏まえて、参考にできる工夫などを見返していきました。まちを観察する視点について参加者のみなさんで意見を出し合う中で、「大きな街ではなく、鶴川に合った具体的な事例の必要性」についても意見が出ました。

その後、講義の中では、「まちの中には、どんな物が備わっているのか？普段気にせず歩いているまちで、どのような工夫がされているのか？」という点に焦点を当てて、まちに備わっていて歩きたくなる工夫につながるものについて、武井さんから解説をいただき、実際のまちにおける工夫について学びました。視覚的に色で歩道か車道かを意識させる材料の使い分けや、その場所の特性に合った素材の活用、あえて存在を意識させない設備カバーの作り方など、実際の事例を元に学びました。（右図参照）

【歩きたくなるまちの要素】

○舗装（道路/歩道）

- ・アスファルト
- ・脱色アスファルト
- ・インターロッキング
- ・天然石



舗装/インターロッキング
長岡京市（京都市）©古川商事株式会社



舗装/天然石
丸の内仲通り（東京都）©TNA



舗装/レンガ
富岡市（群馬県）©TNA

○設備

- ・マンホール
- ・地上機器
- ・側溝
- ・調整池



地上機器/コモンシティ星田（大阪府）
©2023Google

○横断防止柵

- ・パイプ型
- ・ボラード型
- ・ファニチャー体型
- ・植え込み型



横断防止柵/ファニチャー体型
元町中華通り（横浜市）©TNA

○点字ブロック



マンホール
丸の内中央通り（東京都）©TNA

専門家によるまちなみの講義

「あかりからのまちづくり」

照明家/ぼんぼり光環境計画代表取締役 東京都市大学工学部 客員教授 角館 政英 先生

人の気配を感じるあかり。歩きたくなるまちにはいつも発見があり、その発見はそこに住む人々の営みが見えることで生まれると角館先生は言います。そのためには、暗い夜を昼間と同じように全ての場所を一律に照らして明るくするのではなく、「人がいるところ」にあかりを灯して「人の気配を感じるあかりがあるまち」にすることが景観上だけでなく、防犯上もとても重要です。今回の講義の中では、角館先生が社会実験やまちのデザインを手がけてきた川越や横浜、五箇村の事例を交えながら、国の性能設計や照度基準に頼らない運用方法などを解説いただきました。また、ヨーロッパの古い街並みでは、土地の所有者と自治体が連携して、私有地の中に公共の街灯を設置するなどの運用方法が実践されています。この方法では、街灯ではなく私有地や建物の壁面に「まちに向けたあかり」を設置することで、防犯上の死角や犯罪者の逃げ場を無くし、街全体の防犯を高めているそうです。また、まち全体の「魅力創出」という効果も生まれ、結果として「歩きたくなるまち」「人が立ち寄りたくなるまち」が出来上がっていく具体的事例を学びました。



参宮橋道路/©ぼんぼり光環境計画



上州富岡駅/©ぼんぼり光環境計画

まちを一律に明るくするのではなく、車のため、歩行者のため、防犯のためなど、目的に応じて「人の気配のするあかり」を設置することで、結果としてまちの魅力が増し「歩きたくなるまち」となります。

【角館さんのレクチャーのまとめ】

- ・人の気配、存在は **防犯性** を高める
- ・ **まち** に顔を向けると、 **まち** が変わる
- ・ いろんな **発見** がある街は **散策** したくなる

【防犯を考えたあかりとその効果】

防犯を考えたあかり	防犯以外の効果
<ul style="list-style-type: none"> ・人の気配がするあかり ・犯罪者が隠れる場所、逃げこめる場所を明るく照らす ・危険度に合わせたあかり 	<ul style="list-style-type: none"> ○人の気配のするまち ○変化を感じられるまち ○人を集める魅力のあるまち ○時間に合わせた点灯 ○運用コストの削減 ○省エネ効果がアップ

模型ワーク

「ご自身の敷地周辺について考えよう」

あかりがまちに与える影響や変化について学んだ後は、それらを踏まえて、「歩きたくなるまち」をテーマにそれに関係した要素を模型に落とし込んでいきます。このワークでは、今まで、ご自身の敷地やその隣接する場所、みどりなどについて学んできた際に使った鶴川南口全体の模型を使ってワークを進めました。今回は、ご自身の敷地周辺に限らず、「まち全体」として、どのように考えていけば良いのか、またまち全体の防犯効果や人と車が交差する際の危険を減らすこと、人の気配を感じさせるために、あかりの設置場所についても模型を見ながら考えていきました。

【実際の鶴川駅の模型にマッピングします】



最後に、参加者の皆さんで、鶴川駅南口全体の模型を見ていきました。まち全体としてどのようにしたら「歩きたくなる」のか。ワークでは、参加者の方が各々「街灯」「あかり」「樹木」「フェンス」「ベンチ」など、実際のまちなみでイメージできるようなミニチュアを、まち全体の模型に設置していきます。ご自身の敷地のみならず、鶴川駅南口全体や、歩きやすさに注目して設置していきました。